

自己実現への道

第78回 ー第5章 「常に進歩をめざすところに生きがいがある」(その7)ー

★時と願いで織りなす一生のライフスタイル

人生の仕事への取り組みは次の3つの段階である。①着手、②発展、③完成

一枚の美しい刺繍が生まれるためには美術品の完成に心を傾ける熱心さと辛抱強さが必要であり、最初のひと針は深い願いを込めて、刺し込まれる。人は一生をかけて自分のライフスタイルを織り上げる。意思決定、チャンスの発見、問題解決を繰り返し、人生の織機に多彩な色の糸を織り込みながら、新しいライフスタイルをゆっくり美しく作り上げてゆく。

歳月を重ねるにつれ、人格が形成され、その姿を見せ始める。見えざる力の導きを信じる深遠によって徳望が次第に固まってゆく。

行為という種をまけ。そうすれば習慣を刈り取ることができる。

習慣という種をまけ。そうすれば人格を刈り取ることができる。

人格という種をまけ。そうすれば運命を刈り取ることができる。

想念は宇宙に刻印され、反応を引き起こして戻り、事故の今後の運勢を形成してゆく。

今まで不運を嘆くな。これから毎日よい想念、積極的な想念をするのだ。

そうすればあなたの人生は次第に、そして必ず好転してゆくのである。

★「決断」のハサミを入れる勇氣

あなたは布地を必要な長さだけ買った。大変高価な布地である。これを裁断して服に仕立てる。失敗は許されない。「寸法は3回測り、裁断は1回だけ」裁断された布地は元には戻らない。

裁断は大切な材料を無駄にするリスクを負っており、結果がうまくいくようにと望みをかけて行う、やり直しのきかない一種の賭けのようなものである。

牧師の母親は旅行先で高級布地を買った。

これで何を作ろうか、あれを作ろう、これを作ろう・・・でも失敗したら怖いと迷い続け・・・母親が80歳で死んだとき、布地は相変わらず棚の上に置かれたままだった。

結局、母親は何も作らなかったのだ。

「成功のためのひとつの要因は『決断』である。よく考えて、時が来れば勇敢に決断しよう」

一方で見えざる力に全託すると同時に自分は最善を尽くさなければならない。

最善を尽くすことのひとつが『決断』する習慣を培うことである。

<MIKO>

☐ 参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より